

# アフリカ石油産業の輸出戦略

大阪商業大学 中津 孝司

## 1. 問題の視点

中東産油国に対する原油輸入依存度とアフリカ産原油

アフリカ産原油は中東産原油の代替となり得るか

ex. アメリカの石油輸入国(2001年、日量 910 万バレル) : サウジアラビア 17.6%、メキシコ 15.1%、カナダ 14.4%、ベネズエラ 14.0%、ナイジェリア 8.9%、イラク 8.5%、その他 21.5% (アンゴラ、ノルウェー、コロンビア、クウェート、イギリス、ガボン、エクアドル)

日本の中東産原油依存度が 90%に近いのに比べ、アメリカの場合、極めて低い  
アメリカの場合、石油輸出国機構(OPEC)依存度も低い

ナイジェリアは OPEC 加盟国であるが、第 5 位に位置する

原油輸入先の多様化を考える場合、アフリカ産原油は日本にとって有効か

仮に有効だとして、アフリカ石油産業の現状を把握しているか

アフリカ産油国の比較

アルジェリア : OPEC 加盟産油国 情勢は安定の方向へ 原油埋蔵量 92 億バレル

リビア : OPEC 加盟産油国 経済制裁が凍結され好転 原油埋蔵量 295 億バレル

ナイジェリア : OPEC 加盟産油国 情勢は不透明 原油埋蔵量 240 億-315 億バレル

アンゴラ : OPEC 非加盟産油国 内戦停戦後安定へ 原油埋蔵量 80 億バレル

日本は脱中東、脱 OPEC を進めるべきではないか アフリカ産油国に注目する意義

## 2. アフリカ経済と石油

世界全体の国内総生産(GDP)に占めるアフリカ経済の比率:2%

世界人口に占めるアフリカの比率:13%

アフリカの国民一人当たり所得:世界平均の 12%

アフリカ経済の中心:農業と鉱業 1次産品依存型

原油と天然ガスを経済発展の起爆剤にできるか

## 3. アフリカ石油産業の動向

### A. アルジェリア

ブーテフリカ(Abdelaziz Bouteflika)文民政権発足後、安定へ

1999年以降、経済成長 石油・ガス部門が貢献 : 2000年 2.4% 01年 3.8% 02年 4.4%

石油・天然ガス産業 : GDP の 30%を創出 輸出の 90%を占有

外貨準備金 00年末 120 億ドル 01年末 180 億ドル

国際通貨基金(IMF)の指導で民営化、銀行改革に取り組む

石油部門 : アルジェリア炭化水素公社(ソナトラック)と外国資本とによる開発

国内では天然ガスへの転換を図り、原油の輸出増を意図

原油輸出の 90%は西欧(イタリア、ドイツ、フランス、オランダ、スペインなど)へ

原油生産 01年の平均 日量 82万 7000 バレル 05年同 150万バレル(輸出 125万)に  
ハッシメサウド油田(埋蔵量 64億バレル 同国全体の70%)

BP、アナダルコ(米)、マエルスク・オイル(デンマーク)、アジップ、BHP、レプソ  
ル(スペイン)、トタルフィナ・エルフなどが進出

#### B. リビア

実質 GDP 成長率 00年 6.5% 01年 3.1-4.3% 02年 3.6-4.5%

石油産業：外貨獲得の95%、政府歳入の75%

石油輸出収入：98年 60億ドル 01年 110億ドル 02年 106億ドル

産油量：日量 150万バレル 輸出量：同 120万バレル(イタリア、ドイツ、フランス等)  
イタリアのアジップ-ENI がいち早く進出

優位性 低コスト：生産コストは1バレル当たり1ドル

欧州市場に隣接

インフラ(パイプライン、ターミナル)整備が進行

#### C. ナイジェリア

1999年にオバサンジョ(Olusegun Obasanjo)大統領が民政移管

民有化、外為管理、補助金削減に取り組む

実質 GDP 成長率 01年 3.0% 02年 3.3%

石油収入が支える：輸出の90-95% 外貨獲得の90% 政府歳入の80%

石油部門：ナイジェリア国営石油会社(NNPC)による独占

産油量 02年の平均 日量 211万 8000 バレル

95%が外資との合弁企業が産出 最大の出資企業：ロイヤル・ダッチ・シェル

03年3月 ニジェール川デルタ地域の石油生産が民族・部族対立により停止(その後回復)

ナイジェリアの場合、石油施設が標的となり易い

シェルのほかエクソンモービル、シェブロンテキサコ等が進出 深海油田の開発を推進

もう一つの特徴：LNG、GTL プラントの建設に力点

#### D. アンゴラ

停戦後、ドスサントス(Jose Eduardo Dos Santos)大統領が本格的民主選挙を約束

GDP 成長率 01年 3.4% 02年上半期 11.2% 石油部門に依存(GDPの50% 輸出の90%)

石油産業：飛び地カビンダ沖が中心 同国原油生産の50% 外貨獲得の中心地

国営石油会社・ソナンゴルが外資(シェブロン エルフ モービル等)を受け入れ

産油量:01年日量 74万 2000 バレル 02年 1-8月同 89万 7000 バレル 03年同 100万

#### 4. アフリカ産原油の位置

アフリカの原油生産量の急増は今後も続く アメリカの湾岸、中南米の代替調達先

国営石油企業の枠を維持しながらも、外資に開放し、輸出力の強化を狙う

ナイジェリア、アルジェリア：OPEC 脱退か、イラクと同様、生産枠撤廃か

日本も中東産原油の代替調達先として、ロシア産とともにアフリカ産を見なすべき